

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

教育工学のさらなる発展を期待して —学会活動の充実と国際化に向けて—

副会長 矢野 米雄 (徳島大学)

日本教育工学会が誕生して、今年で23年になります。その間、世界や日本における教育工学に対する期待が大きくなり、現状も下記のように変わってきています。

- 1) 教育における“可能性の研究”から、現場を重んじる“実践的研究”への移行が問われるようになってきた
- 2) Global化が進み日本の教育の独自性や特性にこだわらなくなった
- 3) 新しいTechnologyが社会に普及し、教育現場に利用できる段階になった
- 4) 初等・中等・高等教育の現場では、教育が成り立たないところまできているため、新しい教育方法論の模索と導入が必要となった

本学会も、社会と教育現場に大きく影響を与えるべき状況になってきています。また、世界の動きと呼応し、本学会をInternationalな学会として発展させていく必要性を感じています。

ICCE2007が11月に広島で開催されますが、最近の国際会議では、単に論文を集め発表する機会を与える場としてだけでなく、一つのテーマに絞り込んだワークショップ(WS)等を多く開催する傾向にあります。全員が発表を行い、ホットな議論を展開し、その結果、参加者が何らかの結果や収穫を得て、満足して帰路に着いています。

さらに、博士課程の学生を中心に教育・研究指導する方法を同様なWSで行い、国際的に通用するPhDの学生を育成する試みが行われています。今年8月に香港で行われたMULE2007(Mobile and Ubiquitous Learning Environments)のWSに参加し、筆者も上記のことを体験しました。

本学会の全国大会が早稲田大学で行われます。本大会もInternational Session等の導入など、いくつかの新しい試みがあります。このニューズレターが届く頃には、その成果を感じ取っていることを望む次第です。本学会の今後の発展を期待してやみません。

本号目次

教育工学のさらなる発展を期待して.....	1	研究奨励賞候補者推薦のお願い.....	8
研究会の開催案内/発表募集.....	2	学会Webサイトの紹介.....	9
冬の合宿研究会のお知らせ(第二報).....	5	理事会議事録.....	10
論文誌特集号のご案内(第一報).....	6	新入会員/学会日誌等.....	11
論文誌ショートレター増刊号のご案内(第一報).....	7		

研究会の開催

研究会
2007

テーマ

デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン／一般

- 日 時：2007年10月20日（土）
- 会 場：同志社女子大学 今出川キャンパス ジェームズ館
京都市上京区今出川通寺町西入
- 担 当：余田 義彦（同志社女子大学） yoden@myad.jp
TEL.0774-65-8684

プログラム

発表時間：発表1件につき25分（発表20分程度，質疑5分程度）

9:45- 9:55 開会挨拶・諸連絡 A会場（201教室）

10:00-12:05 午前の部 A会場（201教室） B会場（203教室） C会場（207教室）

A1) 家庭で決められているネット利用のルールの特徴

中山均（高岡市立東五位小学校）高橋純（富山大学）堀田龍也（メディア教育開発センター）

A2) 情報モラル指導における家庭と学校の連携の促進要因に関する検討

山本朋弘（熊本県立教育センター）清水康敬（メディア教育開発センター）

A3) デジタルコンテンツを含む「ネット教育指導用パッケージ」の開発

二見美佐子（目黒区立不動小学校）大矢るり子（町田市立本町田小学校）

薦谷孝司（狛江市立緑野小学校）鈴木恵理子（世田谷区立弦巻小学校）

A4) 発達段階と情報機器の利用状況を考慮した情報倫理教育支援システムの開発

石田崇・笠井俊信（岡山大学大学院）

A5) 小学校でのモラル教材実証授業と大学生のケータイモラルの実態調査

益子卓・永岡慶三（早稲田大学）

B1) 大学での e-Learning SYSTEM による基礎学力養成

菅田徹（金沢星稷大学）伴浩美（東京未来大学）

B2) 地域メディアの活用と著作権

大貫恵理子（著作権教育フォーラム）宮本節子（兵庫県立大学）

B3) 参加カリキュラムが及ぼす幼児の「遊び」の変容—メディア遊びを通して—

中村恵（園田学園女子大学）

B4) 芸術作品制作場面においてリフレクション支援ツールを用い、内的プロセスを振り返り吟味する授業デザイン

中村太郎（中京大学大学院）宮田義郎（中京大学）

B5) ユビキタス学習環境における学習開発の理論的枠組みとシンボリズム

西之園晴夫（学習開発研究所／佛光大学）望月紫帆（学習開発研究所）宮田仁（滋賀大学）

C1) 公民館と水族館との連携による児童と保護者のための子供会向け地域学習プログラムの開発

石塚丈晴（静岡大学）高田浩二・森徹・三宅基裕・岩田知彦（海の中道海洋生態科学館）

浜崎隆好・石井秀子（福岡市奈多公民館）今林勲（奈多校区子ども会育成連合会）

西村靖司（福岡工業大学短期大学部）森谷和浩・前田喜和（チエル）

堀田龍也（メディア教育開発センター）

C2) 移動型情報携帯端末 iPod を利用した学習支援システムの開発

清水英典・難波克己・富永順一（玉川大学）

C3) Blog を用いた教育用映像/画像データベースの構築

柳沼良知（メディア教育開発センター）

C4) Web サイトにおける高齢者向け階層構造の研究

高橋純・山西潤一（富山大学）

C5) マルチメディア教材利用時の学習履歴データの妥当性の検証：視線行動を中心として

宮本節子（兵庫県立大学）木下徹（名古屋大学）今井裕之（兵庫教育大学）

大石晴美（岐阜聖徳学園大学）

13:05-14:45 午後の部第一部 A会場 (201教室) B会場 (203教室) C会場 (207教室)

- A6) フラッシュ型教材を収集・提供する Web サイトの開発
堀山龍也 (メディア教育開発センター) 高橋純 (富山大学)
三好亜理紗・平山栄一・村上守・川澤和成 (チエル)
- A7) ICT が授業展開に与える影響について
泰山裕・内垣戸貴之 (関西大学大学院) 坂田篤志 (園田学園高等学校) 黒上晴夫 (関西大学)
- A8) ICT 活用授業による学力向上効果とその要因に関する検証
豊田充崇・野中陽一 (和歌山大学) 永野和男 (聖心女子大学)
- A9) 高速電力線通信 PLC を活用した普通教室における情報活用に関する研究
井上真宏 (兵庫教育大学大学院) 長瀬久明 (兵庫教育大学)

-
- B6) 英語学習ツールとしてのプレゼンテーションソフト
Jason Christopher Jones (大阪大学大学院)
- B7) Digital Components of a Business English Program
Brent Allen Jones (神戸学院大学)
- B8) マルチメディア教材利用時の視線移動距離, 移動速度, 瞳孔径と脳血流量変化: 学習ストラテジーとの関連から
木下徹 (名古屋大学) 宮本節子 (兵庫県立大学) 大石晴美 (岐阜聖徳学園大学)
今井裕之 (兵庫教育大学) 柳善和 (名古屋学院大学)
- B9) プロジェクト発信型英語授業における BLOG の有効利用とそのマネジメントシステム
長谷部葉子 (慶應義塾大学) 大久保創介 (慶應義塾大学大学院) 戸倉麻衣 (慶應義塾大学)
西家義雄 (一橋大学)

-
- C6) 大人数クラスにおける大福帳の作業軽減の試み
波多野和彦 (メディア教育開発センター) 三尾忠男 (早稲田大学)
- C7) 受講者の行動履歴の取得を目的とした授業システムの提案
高野辰之・宮川治・小濱隆司 (東京電機大学大学院)
- C8) 大学生の「ものづくり」に対する意識と数学不安・コンピュータ不安の関連について
溝端宏章・大森淳志・鈴木雄介・安村珪豪・野村竜也 (龍谷大学)
- C9) 高校の教科「情報」に対応した大学の情報教育の改善と評価
小川亮・黒田卓 (富山大学)

15:00-16:40 午後の部第二部 A会場 (201教室) B会場 (203教室) C会場 (207教室)

- A10) 授業風景の映像を分析・共有する VVC の考察
松本寿一 (大阪工業大学) 森田英嗣 (大阪教育大学)
- A11) VVC を活用したオンライン授業研究会の試み
森田英嗣 (大阪教育大学) 松本寿一 (大阪工業大学)
- A12) フィンランドにおける教師教育改革と遠隔教育の利用動向
小柳和喜雄 (奈良教育大学)

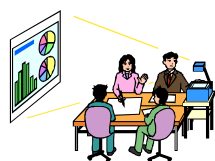
-
- B10) 機械翻訳を用いたグローバルな交流のための書き方と読み方について
長瀬久明 (兵庫教育大学)
- B11) 機械翻訳に適応するための書法ルール習得テキスト開発
橘守亮・長瀬久明 (兵庫教育大学)
- B12) 機械翻訳を用いたグローバルな交流を助ける冗長な補助文に関する研究
山本歩 (兵庫教育大学大学院) 長瀬久明 (兵庫教育大学)

-
- C10) 米国の科学博物館 (Lawrence Hall of Science) による科学数学教育プログラム (GEMS) の概要
ーサイエンスコミュニケーション活性化のリソースとしてー
都築章子 (GEMS アソシエイト) 鈴木真理子 (滋賀大学)
- C11) 学びを定着・深化させるデジタルコンテンツの活用～理科ねっとわーくの活用を通して～
小林摩耶 (つくば市立二の宮小学校) 飯田保奈 (つくば市立吉沼小学校)
- C12) クリケットを使った 90 分ワークショップーそのデザインと年代を越えた参加者への実践ー
元原麻里・林美和 (同志社女子大学) 森秀樹 (CSK ホールディングス)
有賀妙子・上田信行 (同志社女子大学)
- C13) クリケットを使ったワークショップ型授業のための教員支援
森秀樹 (CSK ホールディングス/大阪大学大学院)

16:15-16:20 (A・B会場) 16:40-16:45 (C会場) 閉会挨拶・諸連絡

- 参加費用：研究会報告集の年間予約購読代金が入金確認されている本学会会員は無料で参加できます。その他の参加者は本学会会員を問わず 1,000 円（当日受付にてお支払いください）となります。
- 交通案内：JR「京都」駅から地下鉄烏丸線（国際会館行）に乗車して「今出川」駅で下車，3 番出口を上がって東へ徒歩 5 分。
 ＊訪問者用の駐車場がありませんので，電車・地下鉄をご利用ください。
 ＊JR「京都」駅には何カ所か改札口があります。一番東側にある改札口（新幹線の場合は東改札口）を出ますと，地下鉄への乗り継ぎに便利です。
 ＊詳しくは，<http://www.dwc.doshisha.ac.jp/access/access02.html> を参照下さい。

研究会の発表募集



テーマ 一般高等教育と e ラーニング／一般

- 日 時：2007年12月22日（土）
- 会 場：熊本大学（熊本市黒髪 2-40-1）
- 開催担当：根本 淳子（熊本大学）
- 申込締切：2007年10月22日（月）
- 原稿提出：2007年11月22日（木）

●募集内容：

高等教育における e ラーニングについてさまざまな形で研究，そして実践がなされています。情報技術の発展や，ニーズの変化に伴い，教育機関や既存の学習環境にあわせたデザイン力と応用力が新しい技術の活用，ブレンディングの授業，通信制などに求められています。本研究会では，授業実践，カリキュラム構築，チュータリングなどを含む学習支援など高等教育と e ラーニングに関わる研究発表を幅広く募集します。

また，上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法：

研究会 Web ページよりお申し込みください。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

- 申込期限：2007年10月22日（月）
締切後，申し込まれた方宛に発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
- 原稿提出期限：2007年11月22日（木）（厳守！）
お願いいたします。原稿の提出は PDF 形式（サイズは 2M バイト未満）で，研究会 Web ページの「発表申し込みフォーム」より，発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。

今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ	開催場所
2007年12月22日	高等教育と e ラーニング／一般	熊本大学
2008年3月1日	日本語教育と教育工学／一般	名古屋大学
2008年5月17日	テーマ未定	岩手大学

- 発表申込み締切は概ね開催日の 2 ヶ月前となります。
- 研究会に関するご意見・ご希望，研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: jset-branch@jset.gr.jp

年間予約購読のお勧め



- 年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは割高になります）。年間 5 冊，合計 500 ページ前後で，各研究会平均 20 件程度（平成 18 年度実績）の研究発表が掲載されます。詳しくは，学会本部事務局までお問い合わせ下さい。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-13-7 マルキビル

TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

2007年度 冬の合宿研究会 開催案内（第二報）

テーマ「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの有効性を探る！」

小・中・高に限らず、大学・大学院教育においても、授業評価・授業改善に取り組むことが必須となりました。その際、学習者による授業感想やアンケート調査における自由記述等のテキストデータの分析が不可欠ですが、膨大な自由記述をどのように読み解いたらよいか誰もが悩むところです。

今まで漠然と眺めるだけだった膨大なテキストデータを分析する方法としてテキストマイニングという手法があります。一体テキストマイニングとはどのようなものなのか、実際にどうやって活用するものなのか、テキストマイニングって面白そうを使ってみたいのだけどよくわからない。そんな人たちのための冬合宿を企画してみました。

日時：2008年2月22日(金)14:00～23日(土)12:30

会場：兵庫教育大学神戸サテライト（神戸情報文化ビル3F）

<http://www.office.hyogo-u.ac.jp/office/access/data/kobesate.html>

対象：テキストマイニングに関心のある研究者および教育現場の方

定員：80名（学会ホームページから受け付けます。定員になり次第締切ります。）

資料代：2,000円 情報交換会：5,000円（予定）

宿泊：各自でご手配をお願い申し上げます。受験シーズンと重なり、混雑も予想されますので早めの手配をお願いいたします。

日程：（詳細は調整中です。変更する可能性があります。）

2月22日(金)

13:30～ 受付

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～14:35 各テキストマイニング分析ツールの概要説明と希望調査

14:35～15:50 テキストマイニングとは－社会調査法の視点から－
樋口耕一（大阪大学人間科学部）

16:00～18:30 ワークショップ－実際にデータを分析してみよう－
TRUSTIA(ジャストシステム),
Text Mining for Clementine(SPSS),
Text Mining Studio (数理システム),
KH coder(樋口耕一),
Edu-mining ツール（永田亮・掛川淳一）等を使って

19:00～21:00 情報交換会@風～foo～創作居酒屋（エコール・マリリン18F）

2月23日(土)

09:30～10:45 ワークショップの結果報告
司会：村川雅弘（鳴門教育大学）

10:50～11:20 テキストマイニングの活用事例と読み解き方
宮田仁（滋賀大学）

11:25～12:25 授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの活用可能性
－教育技術の視点から－
西之園晴夫（佛教大学）

12:25～12:30 閉会挨拶

詳細及び参加申し込みは学会ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先：冬の合宿担当 永田智子（兵庫教育大学）tnagata@hyogo-u.ac.jp

日本教育工学会論文誌

特集号「学力向上を目指した ICT 活用のデザイン・実践・効果」のご案内（第一報）

近年、我が国においては児童・生徒等の学力向上の重要性が声高に叫ばれるようになってきました。ここでいう学力は、知識・理解に限定されるものではなく、例えば思考・判断力、問題解決能力、情報活用能力を含むものとしてとらえられますが、現在、これらの学力の向上と ICT 活用の接点を見いだそうとする努力が、実証的・実践的に重ねられてきています。

このような潮流を踏まえ、本特集号では、学力向上を期した ICT 活用のデザインと実践、その効果等について、総合的に検討することを試みます。その内容は、学力向上を目指した ICT 活用の授業モデル、特色ある実践、その効果の検証を支柱としつつ、ICT 活用を推進するシステム等の開発研究、教員の ICT 活用指導力の向上を図る教員養成カリキュラムや現職教育プログラムの開発研究等も含まれます。特に今日、初等中等教育における児童・生徒の学力向上を期した ICT 活用が政策的に推進されており、日本教育工学会としてこの分野の知見を整理することが求められていることから、初等中等教育における学力向上と ICT 活用に関わる研究が数多く投稿されることを期待します。

1. 対象分野

- (1) 学力向上を目指した ICT 活用の授業デザイン
- (2) 学力向上を目指した ICT 活用の特色ある実践
- (3) ICT 活用の基盤を成す教授学習理論
- (4) ICT 活用による学力向上の効果測定・検証やその手法に関する研究
- (5) 学力向上を目指した ICT 活用の実態に関する広範囲の調査
- (6) 教員の ICT 活用指導力に関する測定・調査
- (7) ICT 活用指導力の向上を目指した教員養成カリキュラム
- (8) ICT 活用指導力の向上を目指した現職教育プログラム
- (9) 育成を図る学力等を視点とした ICT 活用の歴史や系譜
- (10) 育成を図る学力等を視点とした ICT 活用の国際比較
- (11) 学力向上を期したハードウェア・ソフトウェアの開発と効果
- (12) 学力向上を期した学習コンテンツ・学習支援システムの開発と効果
- (13) 大学生等に対するリメディアル教育における ICT 活用の実践と効果
- (14) その他、学力向上を目指した ICT 活用に関する研究

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能です。ただし、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。なお、特集号編集委員会では、本特集号のテーマの特性から、学力向上を目指した ICT 活用の実践を事例研究として「資料」としてまとめ、積極的に投稿していただくことを期待しています。

3. 論文投稿締切日

2008年1月28日（月）（2008年11月発行予定）

4. 論文送付先及び問い合わせ先

原稿は、この「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/>)に従って執筆し、編集委員会事務局へ送付してください。会員専用 Web サイトから電子投稿することもできます。

5. 特集号担当編集委員会

委員長：堀田龍也(メディア教育開発センター) 副委員長：木原俊行(大阪教育大学)

幹事：寺嶋浩介(長崎大学)・高橋 純(富山大学)

委員：大島 純(静岡大学)・小柳和喜雄(奈良教育大学)・後藤康志(新潟医療福祉大学)・澤本和子(日本女子大学)・新地辰朗(宮崎大学)・鈴木克明(熊本大学)・中川一史(メディア教育開発センター)・中山 実(東京工業大学)・南部昌敏(上越教育大学)・野中陽一(和歌山大学)・東原義訓(信州大学)・益子典文(岐阜大学)・宮田 仁(滋賀大学)・吉崎静夫(日本女子大学)

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第一報）

日本教育工学会論文誌 Vol. 32, Suppl. の発行

論文受付締切：平成 20 年 4 月 1 日（火） 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌 Vol. 32, Suppl. は、年 1 回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol. 27 より以下のようになりましたのでご注意下さい。

（詳細は、JET117 号参照）

1. ショートレターは、刷り上がり 4 ページ厳守。（4 ページを超えるものは採録しない）
2. ショートレターでは、筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等を行うことが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年 1 編に限り投稿できます。
3. 平成 20 年 12 月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のよう内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけてください。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定（平成 20 年度）：

- | | |
|------|---------------------|
| 4 月中 | 担当及び査読者の指名 |
| 5 月 | 編集委員会で査読進捗状況の確認 |
| 7 月 | 編集委員会で採録、返戻の第 1 回決定 |
| 9 月 | 編集委員会で採録、返戻の第 2 回決定 |
| 10 月 | 最終原稿の提出 |
| 11 月 | 著者校正 |
| 12 月 | 増刊号発行予定 |

投稿論文の送付先：

日本教育工学会 編集委員会 事務局
〒141-0031 東京都品川区五反田 1-13-7
マルキビル

電子投稿でも受け付けています。

<http://www.jset.gr.jp/>

研究奨励賞候補者をご推薦ください

第23回全国大会（早稲田大学）の研究発表者の中から、研究奨励賞の候補者を下記の要領でご推薦下さい。

発表をお聞きになっていない場合でも、論文集をご参考をお願い申し上げます。

[締め切り：2007年12月31日(月)]

選考の基準

1. 選考対象者は、本学会の会員であって、受賞時に40歳を越えていないこと。
ただし、本学会入会時から5年を経過していない場合は考慮する。
2. 選考時点から遡って最後の年次大会での正式の研究発表登壇者であること。
3. 既に研究奨励賞を受賞している者でないこと。
4. 対象者の過去の研究業績を尊重すること。

注：研究奨励賞（1985年10月31日 理事会申し合わせ）

「研究奨励賞は、教育工学および関連領域に関する学問の奨励のため、有為と認められる新進の研究者に贈呈する。この奨励賞を受ける者は、本学会会員であり且つ研究大会において講演を行った中から、優秀な論文を発表した者から選定する。」

なお、理事・評議員・大会役員・座長担当者の方は率先してご推薦下さいますようお願い申し上げます。

キリトリ線

第23回 研究奨励賞候補者推薦用紙

候補者氏名	講演番号	推薦者

日本教育工学会

Tel/Fax: 03-5740-9505

E-mail: office@jset.gr.jp

本学会の Web サイトをご活用下さい

広報委員会

本学会では、Web サイトを通じまして、会員の皆様向けに様々な情報提供を行っております。特に、シンポジウム、全国大会、研究会等の情報につきましては、トップページにコンパクトに情報を集約し、そこから各ページをご覧いただくことで、必要な情報を収集できるようにしております。学会の行事の日程はトップページをチェックしていただき、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

本学会への入会申し込みもこちらのサイトよりできるようになっています。会員の皆様から教育工学分野に興味のある方にお伝えいただき、たくさんの方の入会をお勧めいただければと思います。なお、入会にかかる費用については、クレジットカード決済と郵便振替を選択できるようになっておりますので、ご活用ください。

■会員専用ページ

また 2004 年 6 月より会員専用のページを設けております。こちらは学会発行の ID およびパスワードが必要になります。パスワードをお忘れの場合は事務局 (office@jset.gr.jp) までお問い合わせ下さい。

■論文・発表検索機能

この会員専用ページ内には、会員情報・入金確認・支払 (クレジットカード決済・郵便振替) パスワード変更・会員種別の変更などの機能のほか、本学会における論文や発表のタイトルの検索ができます。検索の際には、発行年度および論文誌の種別 (和文誌・英文誌・ショートレター・大会講演論文・研究報告・シンポジウム) を選択でき、さらにキーワードを記入することができます。論文や講演の原稿作成の際に引用や参考にされる論文を検索されるのにとっても便利な機能です。検索結果の画面から検索されたタイトルをクリックしますと、上図のように、論文の詳細が表示され、掲載誌の掲載ページまで表示されます。

会員の皆様がより便利に本学会の Web サイトをご利用いただけますよう、本委員会としてもさらに活動をしてまいります。ご意見・ご要望などは広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp) までお寄せください。
(文責 滋賀大学 神月紀輔)

第 12 期第 3 回理事会議事録

日 時：平成 19 年 9 月 15 日（土）14:40～16:20

場 所：キャンパスイノベーションセンター 2 階多目的室 4 201 号室

出 席：赤堀侃司会長，野嶋栄一郎副会長，矢野米雄副会長，赤倉貴子，池田満，大久保昇，
小柳和喜雄，植野真臣，木原俊行，向後千春，澤本和子，清水康敬，鈴木克明，中山 実，
東原義訓，堀田龍也，宮田 仁，山内祐平

1. 第 12 期第 2 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について承認した。

(1)新入会員： 106 名(正会員:39 名，学生会員:56 名，准会員:10 名，維持会員:1 名)

(2)退会会員： 5 名(正会員:3 名，准会員:2 名)

(3)会員種別変更： 11 名(正会員へ 4 名，学生会員へ 7 名)

3. 各種委員会報告について

(1)編集委員会

清水編集長から，資料に基づいて和文誌，特集号，ショートレター増刊号，英文誌の編集進捗状況が報告された。

和文に掲載された論文等の英文アブストラクトを英文誌に掲載すること，編集委員の追加を検討していることが報告された。

堀田理事から次期特集号の説明があった。

(2)研究会委員会

堀田理事から資料に基づいて研究会および委員会開催の予定が説明された。

(3)企画委員会

大久保理事と鈴木理事から資料に基づいて，企画委員会委員を承認した。

産学協同セミナーの企画過程が報告された。

(4)大会企画委員会

木原大会企画委員長から大会プログラムについて説明があった。

向後理事から，準備状況，会場アクセス等について説明があった。

(5)総務・会計

大会論文集の電子図書館への登録についての手順を検討することにした。

各委員会委員の委嘱について確認を依頼した。

(6)広報委員会

資料に基づいて JSET ニュースレター 155 号台割案が示され，ページ数の構成について検討した。

4. その他

・ ICCE2007 の開催準備状況が報告された。

・ 2009 年度大会開催について意見を出し合った。

(1)後援名義使用を承諾した。

・ 高等教育「情報」シンポジウム 2007(情報処理学会)

(2)協賛名義使用を承諾した。

・ ワークプレイスラーニング 2007(東京大学 大学総合教育研究センター)

(3)本学会への広報を確認した。

(4)今後の理事会

2007 年 9 月 23 日（日）全国大会（早稲田大学）

以上

■正会員 39名

茂木 一司 (群馬大学)
 境 一三 (慶應義塾大学)
 三輪 吉和 (NPO 法人学習開発研究所)
 諸葛 正弥 (T's skill 教育技術研究所)
 野澤 亜伊子
 (株式会社ベネッセコーポレーション)
 坪田 康
 (京都大学 学術情報メディアセンター)
 Azeemh Hamzeh
 (関西大学総合情報学部)
 今村 泰正 (梅花女子大学)
 長谷川 高志 (国際医療福祉大学)
 原田 泰
 山田 利昭 (日野市立日野第三中学校)
 石井 徳人
 (横須賀市立横須賀総合高等学校)
 村上 涼 (四国大学生生活科学部児童学科)
 菊地 秀文 (目黒区立東根小学校)
 牧 琢弥 (二階堂学園日本女子体育大学)
 塚本 美恵子 (駿河台大学)
 世良 清 (三重県立四日市商業高等学校)
 西岡 貞一 (筑波大学大学院)
 小原 格 (東京都立町田高等学校)
 蒋 科蔚 (山口大学大学院)
 河島 雅生 (札幌市立米里中学校)
 松本 亮子 (大川センター)
 佐竹 卓彦 (沖縄工業高等専門学校)
 Rolbin Cyrus Paul (慶應義塾大学)
 中島 平 (東北大学)
 中島 功滋
 (特定非営利活動法人教育テスト研究センター)
 佐賀 信裕 (福岡工業大学短期大学部)
 佐藤 貴之 (仙台電波工業高等専門学校)
 遠藤 敏喜 (自由学園)
 大沼 博靖 (青山学院大学総合研究所)
 森下 博 (兵庫大学)
 小濱 隆司 (東京電機大学)
 福田 珠希
 鍋島 浩 (尼崎市立塚口中学校)
 永安 博幸 (長崎県教育庁)
 木下 徹 (名古屋大学)
 大石 晴美 (岐阜聖徳学園大学)
 谷口 政男 (帝京大学短期大学)
 藤木 大介 (広島大学)

■学生会員 56名

林 一 (埼玉大学大学院)
 高安 真理子 (京都大学大学院)
 鏡 愛 (三重大学大学院)
 遠海 友紀 (関西大学)
 盛岡 浩 (関西大学大学院)
 中川 弘充 (東京工業大学大学院)
 尼寺 孝彰 (慶應義塾大学)

馬場 絢子 (東京工科大学大学院)
 安田 ひとみ (上越教育大学大学院)
 呉 若旻 (早稲田大学大学院)
 寺脇 由紀 (東京大学大学院)
 田島 弘貴 (立命館大学)
 河田 裕 (立命館大学)
 望月 規宏 (立命館大学)
 中澤 正江 (北陸先端科学技術大学院大学)
 橋 守亮 (兵庫教育大学)
 戸練 樹 (武蔵工業大学)
 成井 智祐 (東京工業大学大学院)
 高野 喜守 (上越教育大学大学院)
 河合 聡志 (慶應義塾大学)
 今岡 義明 (関西大学大学院)
 川崎 由花 (兵庫教育大学大学院)
 吉田 裕典 (東京大学)
 宮崎 靖 (富山大学大学院)
 泰山 裕 (関西大学大学院)
 久保 輝美子 (東京工業大学)
 奥本 素子 (総合研究大学院大学)
 山路 蘭 (つくば大学大学院)
 加藤 洋平 (早稲田大学)
 中山 駿 (富山大学)
 中村 宏 (東京理科大学大学院)
 村田 大輔 (静岡大学大学院)
 尾崎 真佐子 (京都大学)
 安達 楽 (大谷大学)
 横澤 樹一郎 (明治大学)
 灰谷 綾平 (京都産業大学大学院)
 殿柿 弘行 (上越教育大学)
 古谷 公則 (電気通信大学大学院)
 岡野 真 (電気通信大学)
 堀本 高志 (上越教育大学)
 江浦 崇之 (関西大学大学院)
 山本 良太 (関西大学)
 栗島 由美 (日本大学)
 堀本 高志 (上越教育大学)
 森田 千寿 (兵庫教育大学大学院)
 狭間 浩史 (奈良先端科学技術大学院大学)
 戸井 敦子 (東京工業大学大学院)
 高谷 将宏 (放送大学大学院)
 高野 辰之 (東京電機大学大学院)
 渡邊 英子 (早稲田大学)
 青木 直 (慶應義塾大学)
 中野 てい子 (東京工業大学)
 山本 雅宣 (放送大学大学院)
 飯塚 佳乃 (放送大学大学院)
 井上 真宏 (兵庫教育大学大学院)
 村嶋 亮一 (熊本大学大学院)

■准会員 10名

黒坂 俊介 (夕張市立幌南小学校)
 高橋 悦子 (日野市立日野第三小学校)
 田村 慶信 (広島工業大学)

田村 寿浩 ((株)博報堂 研究開発局)
 安間 文彦 (電気通信大学)
 畔柳 信之 (北区教育委員会事務局)
 座波 圭美
 (財団法人 ユネスコ・アジア文化センター)
 瀬戸 仁美
 宮内 健 (立川市立第五小学校)
 森下 耕治 (光村図書 開発部)

■維持会員 1名

北村 誠
 (株式会社富士通四国システムズ)

学会日誌

2007年

- 10月20日(土) 研究会「デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン」
(同志社女子大学)
- 12月22日(土) 研究会「高等教育とeラーニング」(熊本大学)

2008年

- 2月22日(金)～23日(土) 冬の合宿研究会「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの有効性を探る！」(兵庫教育大学)
- 2月29日(金) 産学協同セミナー(予定)
- 3月01日(土) 研究会「日本語教育と教育工学」(名古屋大学)
- 5月17日(土) 研究会「テーマ未定」(岩手大学)
- 10月11日(土)～13日(月) 第24回全国大会(上越教育大学)

国際会議の案内

2007年

ICCE 2007 <http://www.icce2007.info/> (11/5～9 広島)

2008年

SITE 2008 <http://site.aace.org/conf/> (3/3～7 USA)

WMUTE 2008 <http://www.wmute2008.org/> (3/23～26 China)

ICALT 2008 <http://www.ask4research.info/icalt/2008/others/> (6/30～7/4 Spain)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ・・・大会企画委員会 (taikai2007@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:赤倉貴子, 広報副委員長:宮田 仁,
委員:矢野米雄, 伊藤剛和, 香山瑞恵, 神月紀輔, 三輪吉和 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.154

2007年10月10日 発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/> 郵便振替 00180-2-539055